

Messaging API

判断キット

4つの質問と通数の計算で、Messaging APIを自分で触るか、ツールか、外注かを決める7枚

この7枚でできること

- ☐ 自分でMessaging APIを触る必要があるかが、4つの質問で決まる
- ☐ こちらから送る自動通知が、月に何通になるかを出せる
- ☐ プロバイダーなど、押したら戻せない設定を先に知っておける
- ☐ 外注先に聞く5点を、そのまま送れる

使う順番

2ページで4つの質問に答える → 3ページで標準で足りないかを確認する → 4ページで通数を計算 → 5ページで戻れないことを確認 → 6ページで自分のやりたいことを分ける → 7ページで外注先に聞く。

目次

2	判断シート 4つの質問 触る必要があるか、3年動かす人、管理画面との違い
3	できること10個と、似た名前の整理 10個の使いどころ、APIの名前4つ、標準で先に試すもの
4	通数の計算表 数えるもの数えないもの、自動通知の通数の計算、通数の取り方2種類
5	戻れないこと、止まること プロバイダーなど11項目、有効にする手順
6	APIの出番か 12業種 外のシステムとつながりで分けた例と、自分の欄
7	外注で聞く5つと、問い合わせ文 候補ごとの記入欄、5点を聞く文、つまり3か所

数字と決まりの出どころ

この資料の数字と決まりは、講座の記事本文に書いたものだけです（記事の確認時点。LINE DevelopersとLINEヤフー for Businessの公式ページは2026年9月26日に確認）。コードは1行も出しません。判断できる状態になるところまでが目的です。

判断シート 4つの質問

ほとんどの方は、自分でMessaging APIを触る必要がない

Messaging APIは、自分たちのシステムとLINEの間でメッセージをやりとりするための窓口です。上から順に答え、当てはまるほうを○で囲みます。

質問	はい、またはできる	いいえ、またはできない
質問1 お客様ごとに、違うメニューや違う文面を出したいですか	質問2へ	要らない。標準機能で足りる
質問2 それは、既製のツールで実現できませんか	ツールを使う。月額を払うほうが安く済む	質問3へ
質問3 社内に、サーバーを動かせる人がいますか	質問4へ	開発会社に頼む。この場合も自分でAPIは触らない
質問4 そのしくみを、3年動かし続けられますか	作る価値がある	作らないほうがまし。止まったチャットボットは、何も無い状態より印象が悪い

4つ目がいちばん大事です。LINE側の仕様は変わり、担当者が辞めることもあります。

3年動かし続ける人（質問4で「はい」と答えた場合）

役割	担当者	その人が辞めたら誰が
サーバーとプログラムを動かす		
LINE側の仕様変更を追う		
月中に通数の残りを確認する		

管理画面から送るのと、何が違うのか

	管理画面から送る	Messaging APIから送る
誰が送るか	人	プログラム
送る中身	決めておいた文章	お客様ごとに変えられる
送るきっかけ	人が押したとき、または予約した時刻	注文が入った、予約が入った、など何でも
用意するもの	管理画面だけ	サーバーとプログラム

動きは3段です。お客様がメッセージを送る → LINE側からこちらのサーバーへ通知が飛ぶ（これをWebhookと呼ぶ） → こちらのサーバーが中身を見て、LINEを通して返す。

判定 要らない / ツールを使う / 開発会社に頼む / 自社で作る （○で囲む）
理由 →

できること10個と、似た名前の整理

実務でいちばん効くのは7番目

#	できること	どんなときに使うか
1	応答メッセージを送る	お客様の発言に合わせて返事を変える
2	好きなタイミングで送る	注文が入ったとき、発送したときに自動で送る
3	いろいろな形式で送る	画像、動画、位置情報、カード型など
4	送られた画像や動画を受け取る	お客様が送った写真をこちらのシステムに保存する
5	プロフィールを取得する	表示名やアイコンを使って、名前入りの文面にする
6	グループトークに入る	社内の連絡グループにお知らせを流す
7	リッチメニューを操作する	お客様ごとに違うメニューを出す（標準機能には無い）
8	ビーコンを使う	店の近くに来た人にメッセージを出す
9	アカウント連携を使う	自社サイトの会員とLINEの友だちを結びつける
10	送った通数を取得する	今月あと何通送れるかをシステム側で見る

「APIでつながます」と言われたら、どれのことを聞く

名前	何をするものか
Messaging API	LINE公式アカウントからメッセージを送る、受け取る
LINEログイン	自社サイトの会員登録やログインをLINEで済ませる
LIFF	LINEの中でウェブページを開き、そこでユーザーの情報を扱う。ミニアプリの土台
LINEミニアプリ	LIFFの上で動く、会員証や予約などのアプリ

LINE Notifyは2025年3月31日で提供を終えました。代わりに使うのがMessaging APIだと公式が案内しています。LINE NotifyをLINEのAPIの1つとして並べている記事がまだありますが、もう使えません。

APIに進む前に、標準で足りないかを見る

やりたいこと	先に使うもの	試した日
見た目を作り込みたい（Flex Messageと言われた）	リッチメッセージとカードタイプメッセージ。管理画面から作れて追加の費用もかからない	
チャットボットを作りたい	応答設定にあるAIチャットボット。開発は要らない。応答時間の内と外で使い分けられる	

APIが要るのは、見た目ではなく「中身をお客様ごとに変えたい」ときです。標準で足りるかを見てから見積もりを取ると、比べる相手がある状態で金額を判断できます。

通数の計算表

APIそのものの利用料は0円。お金がかかるのは送った通数だけ

プラン別の無料通数（税別）

プラン	月額	無料の通数	追加
コミュニケーション	0円	200通	送れない
ライト	5,000円	5,000通	送れない
スタンダード	15,000円	30,000通	3円から

2026年10月1日から追加メッセージの単価が改定され、20万通までが3円、それを越えた分が2.5円。いま試算するなら改定後の単価で。APIを有効にしても料金プランは変わりません。

通数に数えるもの、数えないもの

送り方	数えるか
プッシュメッセージ（こちらから送る）	数える
マルチキャスト（複数人にまとめて）	数える
ブロードキャスト（全員に）	数える
ナローキャスト（絞り込んで）	数える
応答メッセージ（相手の発言に返す）	数えない

数え方の細かいところ

決まり	中身
送る相手の人数で数える	5人のグループに1回送れば5通。1回のリクエストに文章を4つ入れても通数は変わらない
届かないものは数えない	ブロックしている人や、存在しないIDに送ろうとした分は数えられない
上限を超えるとエラーで送られない	送れなかったことに気づかないまま次の日を迎える事故が起きる。自動通知を入れた月は、月中に残りを確認する

うちの計算（こちらから送る自動通知だけを数える）

自動で送る通知	月の件数	1件あたりの通数	月の通数
例 注文時と発送時の通知	100件	2通	200通（無料枠を使い切る）
ふだんの配信（管理画面から）			
合計と、合うプラン			

相手の発言に返すだけのチャットボットなら、200通の枠はほとんど減りません。無料のまま使えるかどうかは「こちらから送るか、返すだけか」で決まります。

APIで取れる通数は2種類あり、中身が逆

調べ方	管理画面から送った分	注意
今月の利用状況	含む	公式が「概算」と書いている
送り方ごとの送信数	含まない	APIで送った分だけ。実際より少なく見える

ツールの画面の通数がどちらの数字かを確認めます。正確な数字が要るときは、公式も管理画面で見えるよう案内しています。

戻れないこと、止まること

押す前と、外注する前に見る

戻れないこと、止まること	先にやること
プロバイダーは後から変更できない	会社として持っているプロバイダーを選ぶ。個人で作ったものを選ぶと会社へ移せない
制作会社の名義でプロバイダーを作られる	その会社を離れられなくなる。外注するなら、こちらの会社名義で作ってもらう
LINEログインなどと別のプロバイダーで作る	連携する予定があるなら、同じプロバイダーにそろえる
既存のプロバイダーを選べない	そのプロバイダーの権限を持ったLINEアカウントが要る
スマホアプリの管理画面からは設定できない	パソコンのWeb版の管理画面で開く
管理者以外の権限では、この項目が触れない	自分が管理者かどうかを先に確かめる
ツールをつないだのに反応しない	〔設定〕 > 〔応答設定〕のWebhookがオンになっているかを見る
管理画面で作った応答メッセージが返らなくなる	返事の担当がツール側に移ったため。どちらで返すかは応答設定で決まる
上限を超えると、エラーが返ってメッセージは送られない	コミュニケーションとライトは追加メッセージを送れない。月中に残りを確認する
契約を終えたとき、しくみが残らない形が多い	外注の前に、終えたときに何がこちらに残るかを聞く
止まったチャットボット	話しかけても返ってこないアカウントは、何も無い状態より印象が悪い。動かす人がいないなら作らない

有効にする手順（押す前にプロバイダーの欄を埋める）

#	手順	やった日
1	管理画面の「設定」から「Messaging API」を開く	
2	「Messaging APIを利用する」を押して、プロバイダーを作るか選ぶ	
3	内容に同意して「OK」を押すと、有効になる	

選ぶプロバイダー	名前	名義（会社 / 個人）
会社として持っているものか		会社 / 個人
LINEログインなどと連携する予定		ある / ない
そのプロバイダーの権限を持っている人		

APIの出番か 12業種

分かれ目は「外のシステムとつなぐ必要があるか」だけ

LINEの中だけで完結する話は、だいたい標準機能かツールで足ります。外の在庫や受注や会員のデータと突き合わせたいときに初めてAPIの出番になります。どれも架空の店の例です。

業種	やりたいこと	APIは	理由
通販の 雑貨店	注文と発送を自動でお知らせしたい 16字	APIの出番	買い物かごのシステムとつなぐため
工務店	問い合わせが来たら社内のグループに流したい 21字	APIの出番	社内のシステムとつなぐため
学習塾	会員と会員でない人でメニューを変えたい 19字	APIの出番	お客様ごとのメニューは標準に無い
アパレル の店	在庫のデータと突き合わせて入荷を知らせたい 21字	APIの出番	外の在庫データと突き合わせるため
花屋	注文が入ったら店のスタッフに知らせたい 19字	APIの出番	受注のしくみとつなぐため
美容室	予約の前日にリマインドを送りたい 16字	要らない	予約システム側の機能で送れることが多い
歯科	予約の前日にリマインドを送りたい 16字	要らない	予約システム側の機能で送れることが多い
カフェ	来店ポイントをためてもらいたい 15字	要らない	ショッピングカードで足りることが多い
ジム	会員番号を画面に出したい 12字	要らない	ショッピングカードかミニアプリで足りることが多い
整体院	カードのような見た目で案内を送りたい 18字	要らない	リッチメッセージとカードタイプで足りる
不動産 会社	よくある質問に自動で返したい 14字	先に標準を試す	標準のAIチャットボットから試す
税理士 事務所	営業時間外の質問に自動で返したい 16字	先に標準を試す	応答時間の内と外で使い分けられる

うちのやりたいこと

やりたいこと	外のシステムとつなぐ必要は	APIは

#	聞くこと	候補A	候補B
1	プロバイダーは、こちらの会社名義で作りますか 制作会社の名義だと、あとで移せない（いちばん取り返しがつかない）		
2	通数は、応答メッセージとプッシュのどちらを主に使いますか プッシュ中心なら、プラン変更が必要になる		
3	サーバーの費用は、月額はどこに入っていますか 別請求になっていることがある		
4	仕様が変わったときの改修は、月額に含まれますか 含まれないと、その都度見積もりになる		
5	契約を終えたとき、しくみはこちらに残りますか 残らない形が多い		

問い合わせ文

〇〇御中

はじめにご連絡いたします。〇〇の〇〇と申します。
LINE公式アカウントのMessaging APIを使ったしくみを検討しており、5点確認させてください。

1. プロバイダーは、こちらの会社名義で作っていただけますか
2. 通数は、応答メッセージとプッシュのどちらを主に使う形になりますか
3. サーバーの費用は、月額はどこに入っていますか
4. LINE側の仕様が変わったときの改修は、月額に含まれますか
5. 契約を終えたとき、しくみはこちらに残りますか

やりたいこと → 〇〇
いまのLINE公式アカウントのプラン → 〇〇プラン

よろしく願いいたします。

つまづきやすい3か所

起きること	見るところ
有効にしたのに、設定の画面が出てこない	スマホの管理画面か、管理者以外の権限。パソコンのWeb版で、管理者の権限で開き直す
ツールをつないだら、応答メッセージが返らなくなった	返事の担当がツール側に移った。どちらで返すかは管理画面の応答設定で決まる
月末に配信が届かなくなった	通数の上限を超えている。プッシュで送る自動通知を入れた月は、月中に残りを確認する

見積もりの比較

項目	候補A	候補B
月額（サーバーの費用を含むか）		
増える通数と、合うプラン（4ページの計算から）		